

《教養科目》

科目名	日本文化と国際理解				
担当者氏名	大野 博之、馬場 和久、専任教員				
授業方法	講義・演習	単位・必選	1・必修	開講年次・開講期	1年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		◎ 1-1 教養 ○ 3-3 汎用的技能 ○ 4-4 態度・志向性 ○ 5-5 総合的な学習経験と創造的思考力			

《授業の概要》

国際社会の一員として、自己の役割を果たすために、我が国及び諸外国の伝統や文化等について主体的・対話的に学びながら深く考え、発表していく。また、異なる文化や価値観を持つ人々を理解し、共生していこうとする姿勢を持てるように学んでいく。さらに、国際社会が抱える様々な課題について学び、それらを自らの問題として捉え、解決のために身近なことから取り組もうとする姿勢や態度を養う。

《授業の到達目標》

1. 日本文化と国際理解の重要性について自ら考えを持ち説明できる。2. カナダやオーストラリア、台湾、国内における研修先やその他の国の紹介事例等をもとに、各国の歴史や文化等について説明できる。3. 生活に役立つ英会話の基礎について身に付ける。4. 国際社会の問題点や課題について指摘でき、自らの生き方や在り方について考え、説明できる。

《成績評価の方法》

- ・ 授業ノートの内容（各回ごとのレポート等を含む）70%
- ・ 授業に取り組む意欲や姿勢30%

《テキスト》

- ・ 必要に応じてプリントを配布する。

《参考図書》

大野誠「敦照のこころ」現代書林、1995
 竹田恒泰「日本の礼儀作法」2022
 大津和子・溝上泰「国際理解重要用語300の基礎知識」明治図書、2000

《授業時間外学習》

- ・ 各回ごとのテーマについて予習をしておく。
- ・ 授業後、学修内容や自らの考えをノートにまとめる。
- ・ 予習や復習、課題等、29時間の時間外学習を必要とする。

《課題に対するフィードバック等》

- ・ 毎回の授業の様子や課題への取組状況等を講評する。
- ・ ノート等の提出物にまとめた内容を評価し、フィードバックする。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	国際化の中の日本人:大野博之	「日本文化と国際理解」の講義を通して、国際化の進展の中での日本人の在り方について学ぶ。〔時間外学習〕学修内容と課題に対する自らの考えをまとめる。
2	SDGsと海外の子どもたち：JICA職員	SDGsの視点から捉えた、海外の子どもたちの生活や教育事情について学ぶ。〔時間外学習〕SDGsについて予習しておく。
3	西洋料理テーブルマナー：担任他	学外で西洋料理テーブルマナーを体験し、基本的な礼儀や作法を身につける。〔時間外学習〕事前にマナーについて予習をし、授業後のまとめも行う。
4	国際理解(1)カナダ・台湾：大野満奈・琴絵・担任	カナダ、台湾での海外研修の実際について学ぶ。また、バンクーバーアイランド大学での教育について知る。〔時間外学習〕カナダ、台湾について予習しておく。
5	国際理解(2)オーストラリア：古木竜太・担任	オーストラリア、国内での研修の実際について学ぶ。また、シドニー大学、マッコーリー大学での教育について知る。〔時間外学習〕オーストラリアについて予習しておく。
6	海外で必要な英会話とマナー：Jack	海外生活に必要な基本的英会話について実践的に学ぶとともに生活習慣やマナーについて演習を行う。〔時間外学習〕英会話について予習をしておく。
7	SDGsと国際社会における問題点：JICA職員	世界の貧困や人権、ジェンダー、教育、地球環境問題等について学び、自身の生活や行動の在り方を考える。〔時間外学習〕世界の諸課題について予習しておく。
8	進展する国際社会での生き方：大野博之	国際社会における職業人の生き方について学び、本科目での学修を通して今後の生き方について考える。（発表と討議）〔時間外学習〕学修内容についてノートにまとめる。
9	※研修方面ごと(1)研修の概要（目的と意義等）	現地研修の意義や目的及び、研修先での日程等について学ぶ。また、パスポート申請のための準備を行う。
10	※研修方面ごと(2)研修のための組織作り等	研修のための組織作りと班別行動目標、班別研修コースの設定等を行う。(1)
11	※研修方面ごと(3)研修先のコース設定等	研修のための組織作りと班別行動目標、班別研修コースの設定等を行う。(2)
12	※研修方面ごと(4)研修中のルールやマナー等	研修中の心構えやルール、マナー等について、事例を参考に話し合いを通して実践的に学ぶ。
13		
14		
15		

《教養科目》

科目名	健康・スポーツⅠ				
担当者氏名	古木 竜太				
授業方法	実技	単位・必選	1・必修	開講年次・開講期	1年・後期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力		◎ 1-1 教養 ○ 2-2 知識・技能			

《授業の概要》

いつの時代も健康的な生き方は人類の理想でありながら、近年は身体を動かして活動することや他者と関わる機会が希薄になった時代ともいえる。そこで、本科目では球技などのチームスポーツを通じて、健康の維持・増進を図りながら、チームスポーツにおける協働について学ぶ。社会は協働できる職業人を求めていることを念頭に置き、様々なチームスポーツを通じてコミュニケーションスキルを身につける。

《授業の到達目標》

本科目では、主に球技などのチームスポーツを通じて、以下の目標の到達を目指す。①本授業で取り組むスポーツ各種の基本的なルールを理解して基本動作を修得し、ゲームを実践することができる。②誰とでも良好な人間関係を構築しながら、チームパフォーマンスが高まる方法を考え、実行することができる。③チームスポーツにおけるコミュニケーションについて説明できる。

《成績評価の方法》

本授業で取り組むスポーツ各種の成績およびチームへの貢献度を75%、課題レポート25%とし、総合評価60点以上を合格とする。積極的なプレーや意欲などを加点要素、消極的なプレーは減点要素として評価する。

《テキスト》

必要に応じて資料を配布する。

《参考図書》

- ①豊田 博（編）他『最新スポーツルール百科2000』．2000年4月15日．大修館書店
- ②平下政美『実践・生涯スポーツ』．平成7年5月19日．不昧堂出版
- ③中村敏雄（編）『スポーツ文化論シリーズ⑥スポーツコミュニケーション論』1995年7月15日．（有）創文企画

《授業時間外学習》

本授業で取り組むスポーツ各種に関する基本的なルール・基本動作について、予習・復習しておくこと。（本授業では15時間の時間外学修を必要とする）

《課題に対するフィードバック等》

課題レポートは授業終了後に提出し、コメントを記載して返却する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	心身の健康とスポーツ活動	健康の維持・増進を目的としたスポーツ活動の意義、授業内容や評価方法に関する説明〔時間外学習〕TEAMSで提示した内容について予習・復習すること（合計1時間）
2	体育大会の競技練習（1）	体育大会競技種目の実践、競技方法の理解と出場種目決め〔時間外学習〕令和3年度の体育大会について予習・復習すること（合計1時間）
3	体育大会の競技練習（2）	体育大会の出場種目決め、出場種目の練習〔時間外学習〕自分が出場する種目について予習・復習すること（合計1時間）
4	ポッチャ	基本的なルール、得点集計、戦術の理解、ゲームの実践〔時間外学習〕ポッチャの基本的なルール、得点集計について予習・復習すること（合計1時間）
5	バレーボール基礎練習	基本的なルールの理解、チームワークを深める練習、基本動作の練習〔時間外学習〕参考図書①②で基本的なルールを予習、基本動作を復習すること（合計1時間）
6	バレーボールミニゲーム	ルールの理解を確認するミニゲーム、基本動作の反復練習〔時間外学習〕パフォーマンスレベルについてチーム内で話し合い、練習する（予習・復習1時間）
7	バレーボールリーグ戦の実施（1）	各チーム総当たりのリーグ戦〔時間外学習〕本次のゲーム結果を振り返り、パフォーマンスレベルが向上する練習に取り組む（予習・復習1時間）
8	バレーボールリーグ戦の実施（2）	前次に引き続きリーグ戦を行う〔時間外学習〕パフォーマンスレベルが向上する練習に取り組み、総合成績についてチームで話し合う（予習・復習1時間）
9	協働ゲーム	チームワーク、コミュニケーションを深めるための運動ゲーム〔時間外学習〕TEAMSで提示した内容について予習・復習すること（合計1時間）
10	サッカー・バドミントン基礎練習	基本的なルールの理解、チームワークを深める練習、基本動作の練習〔時間外学習〕参考図書①で基本的なルールを予習、基本動作を復習すること（合計1時間）
11	サッカー・バドミントンリーグ戦の実施	各チーム総当たりのリーグ戦を行う〔時間外学習〕サッカーはパスワークの練習、バドミントンはストロークの反復練習（予習・復習1時間）
12	ポートボール基礎練習	基本的なルールの理解、チームワークを深める練習、基本動作の練習〔時間外学習〕参考図書①②で基本的なルール（バスケ）を予習、基本動作の復習（合計1時間）
13	ポートボールリーグ戦の実施	各チーム総当たりのリーグ戦を行う〔時間外学習〕パフォーマンスレベルが向上する練習に取り組み、総合成績についてチームで話し合う（予習・復習1時間）
14	エアロビックスダンス	ストレッチ、基本的なステップ〔時間外学習〕参考図書②のエアロビクスに関する内容と基本的なステップについて予習・復習すること（合計1時間）
15	ドッジボール	基本的なルールの理解、チームワークを深める練習、ゲームの実践〔時間外学習〕TEAMSで提示した基本的なルールを予習、総合成績についてチームで振り返る（合計1時間）

《教養科目》

科目名	健康・スポーツⅡ				
担当者氏名	古木 竜太				
授業方法	講義	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	1年・後期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力		◎ 1-1 教養 ○ 3-3 汎用的技能 ○ 4-4 態度・志向性			

《授業の概要》

生涯にわたり健康的な生活を送るために、肥満予防、有酸素運動、基礎代謝について学び、グループディスカッションを通じて理解を深める。本科目の学習を踏まえ、自己の食生活、運動習慣を振り返り、より望ましい生活習慣への改善を図る。

《授業の到達目標》

社会に貢献できる専門的な職業人になるために、本科目を通じて健康の維持・増進を目的とした運動の必要性を理解し、日常生活において実用できる。そして、運動処方について正しい知識を学び、日常的な運動を心がけ、健康的なライフスタイルについて説明できる。

《成績評価の方法》

授業後の学習記録用紙の記述内容（25％）、筆記試験（定期試験期間中／75％）で評価し、総合評価60点以上を合格とする。

《テキスト》

毎回の授業においてプリントを配布する。また、ポータルサイトやMicrosoft社製TEAMSを用いて、必要に応じて資料を提示する。

《参考図書》

- ①工藤一彦、金子嘉穂『「体脂肪」を落として「筋肉質」になる』．2000年7月31日．女子栄養大学出版部
- ②安達正夫、吉村 正「知っておきたいスポーツ救急医学」．1992年10月15日．（株）ベースボール・マガジン社
- ③伊丹康人監修「ボールエクササイズ」．1999年3月31日．金原出版株式会社

《授業時間外学習》

本授業で取り組む、「肥満」「ダイエット」「有酸素運動」「ストレッチ」「筋力トレーニング」などについて、図書またはインターネットなどを用いて予習・復習しておくこと。（本授業では29時間の時間外学習を必要とする）

《課題に対するフィードバック等》

毎回の授業後に課題レポートを提示し、コメントを記載して次の授業内で返却する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	健康に関する現状と課題	健康の定義、平均寿命や健康寿命の変遷、健康の前提条件〔時間外学習〕都道府県別の平均寿命・健康寿命について予習・復習（合計3.7時間）
2	体脂肪とダイエット	ダイエットの目的、体脂肪率の特定、BMI値の理解〔時間外学習〕自己の体脂肪率やBMI値の測定、ダイエットの方法について予習・復習（合計3.7時間）
3	若年女性の低体重問題	若年女性の低体重が問題視されている現状や背景、健康のリスク〔時間外学習〕若年女性の低体重問題について予習・復習（合計3.7時間）
4	肥満の原因と基礎代謝	肥満のメカニズム、摂食パターン、基礎代謝について〔時間外学習〕自己の摂食パターンや摂取カロリー、基礎代謝について予習・復習（合計3.7時間）
5	筋力とトレーニングとストレッチ	効果的なトレーニングの方法やストレッチングの留意点〔時間外学習〕サーキットトレーニングやPNFストレッチ、筋膜リリースについて予習・復習（合計3.7時間）
6	有酸素運動の実践法	ウォーキング、エアロビクスダンスの留意点〔時間外学習〕METsについて予習・復習（合計3.7時間）
7	筋コンディショニングの理論と実践	健康の維持・増進を目的としたストレッチング、筋力トレーニングの実践法〔時間外学習〕第4次の講義内容について予習・復習（合計3.7時間）
8	救急処置	RICE処置、テーピングの実践方法、腰痛のメカニズムと対処方法〔時間外学習〕アイシングやテーピング（手首と足首）の実践方法について予習・復習（合計3.7時間）
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

《教養科目》

科目名	英語 I B				
担当者氏名	ロス マシュー デビド ケシー				
授業方法	演習	単位・必修	1・必修	開講年次・開講期	1年・後期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力		◎ 1-1 教養 ○ 2-2 知識・技能			

《授業の概要》

日常生活と専門的英語を学修します。場面を設定しそこでの対話を考えます。エッセイに関しては作成後個別に教員が対面で指導を行います。エッセイについてプレゼンテーションを行います。

《テキスト》

English Day
Robert Hickling
2023 Kinseido publishing

《参考図書》

その都度指示します。

《授業の到達目標》

- (1) 英語を学ぶことと使うことを楽しむことができる。
- (2) 英検の準二級合格に備えることができる。
- (3) 日常単語とフレーズを使う事ができる。
- (4) 基本文型（前置詞や複数形や関係代名詞を含む）を使うことができる。
- (5) 英語が使われる場所や地域の文化的側面を語ることができる。

《授業時間外学習》

- (1) 学生は毎日最低15分英語を勉強することが望ましい。
- (2) 学生はテキストの単語とフレーズを暗記する。
- (3) 日記を書くこともいい方法である。
- (4) 英検を受験して熟達度を測る。
- (5) 一時間程度の宿題が出される。

《成績評価の方法》

評価方法
宿題と授業中の課題 60%
出席と参加態度 20%
中間と期末試験 20%

《課題に対するフィードバック等》

課題返却時に口頭でフィードバックし、提出物にはコメントを記載します。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	指導方針、学び方	(授業内容) ガイダンス、授業の受け方、英語の学び方、英語での自己紹介復習練習 (時間外学習) 英語での自己紹介を書いてくる
2	In the museum 1	(授業内容) 現在進行形 (時間外学習) Unit 8 GRAMMARを解いてくる Home Work 1 を配ります
3	In the museum 2	(授業内容) 過去進行形 (時間外学習) Unit 8 の単語を調べ、本文の訳を書いてくる
4	At a cafe 1	(授業内容) 未来時制 (時間外学習) Unit 9 GRAMMARを解いてくる Quiz 1
5	At a cafe 2	(授業内容) 副詞 always, usually, sometimes, rarely, never (時間外学習) Unit 9 の単語を調べ、本文の訳を書いてくる
6	Part-time job 1	(授業内容) 現在完了形 (時間外学習) Unit 10 GRAMMARを解いてくる
7	Part-time job 2	(授業内容) 過去完了形 (時間外学習) Unit 10 の単語を調べ、本文の訳を書いてくる
8	After work 1	(授業内容) 助動詞 復習練習 (時間外学習) Unit 11 GRAMMARを解いてくる
9	After work 2	(授業内容) ガイダンス 個別指導面接 中間試験 (時間外学習) Unit 11 の単語を調べ、本文の訳を書いてくる Home Work2を配ります
10	Housework 1	(授業内容) 不定詞 (時間外学習) Unit 12 GRAMMARを解いてくる
11	Housework 2	(授業内容) 動名詞 (時間外学習) Unit 12 の単語を調べ、本文の訳を書いてくる
12	Free time at home 1	(授業内容) 比較級 (時間外学習) Unit 13 GRAMMARを解いてくる Quiz 2
13	Free time at home 2	(授業内容) 最上級 (時間外学習) Unit 13 の単語を調べ、本文の訳を書いてくる
14	The weekend 1	(授業内容) 接続詞 and, or, but, so (時間外学習) Unit 14 の単語を調べ、本文の訳を書いてくる
15	The weekend 2	(授業内容) ガイダンス 個別英語面接 期末試験 (時間外学習) Unit 14 GRAMMARを解いてくる

《教養科目》

科目名	中国語				
担当者氏名	蔡 秋斬				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		◎ 1-1 教養 ○ 2-2 知識・技能			

《授業の概要》

近年は経済交流や文化交流を通して、中国が身近な国になってきている。そこで、本講義では発音を学びながら挨拶言葉、家族呼称、数字、年月日を学びます。続けて、テキストの“課文”によって、姓名、判断、質問、所有、存在、期日・曜日、時間帯・時刻、貨幣、完了などの表現を学びます。毎回、内容を確認してから、ペアでロールプレイをしたり、教師と会話ををしながら楽しく授業を進めていきます。

《授業の到達目標》

受講生が中国語の声調を完璧にマスターできるよう、発音の訓練を徹底的に学びます。中国語による挨拶、自己紹介、年月日、曜日、時間、買い物などの日常会話を身につけます。

《成績評価の方法》

定期試験における筆記試験[50%]、宿題[30%]、授業における会話力の向上度[20%]によって評価する。

《テキスト》

和富弥生,原正人 著 笑顔で中国語 入門・初級テキスト (CD BOOK)

《参考図書》

《授業時間外学習》

発音を学んだ後、毎回授業の最初に前課の本文をペアで復唱するので、必ず復習しておくこと。（本授業は2単位科目のため、各回の内容に対し4時間の復習が必要です。）

《課題に対するフィードバック等》

1. 学生の理解しやすい説明を心掛ける。2. もっと日常会話練習に重点を置いた授業にしたい。3. 学生には毎回の授業に出席し、必ず宿題を自分ですることを願います。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	発音①	声調（四声）、単母音、子音（1） 漢詩①（春暁）
2	発音② 第一課 niihao	複合母音、子音（2）、声調記号の付け方 人称代名詞、是、疑問文
3	発音③ 第二課 お名前は	鼻母音、子音（3）、数字、漢詩②（山村） 名前の中国語発音
4	発音④	声調変化、挨拶言葉 総合練習
5	第三課 これは中文の本です	物の尋ね方、代名詞、疑問詞、所有（的）の使い方
6	第四課 私は学校に行く	願望を言う、主語+動詞+目的語 漢詩③（鹿柴）
7	第三、四課	総合練習
8	第五課 漢語難しいか	形容詞副詞の表現
9	第六課 今日は何の日	数、日付、曜日の言い方
10	第七課 今は何時	時刻の言い方 漢詩④（竹里館）
11	第五、六、七課	総合練習 料理屋に行く
12	第八課 私は東京に住む	所在の表現
13	第九課 我が家五大家族	家族の紹介 漢詩⑤（送別）
14	第十課 運転できますか	能力について話す 簡単な自己紹介文を書く
15	第八、九、十課 質問応答	総合練習 自己紹介文を言う

《教養科目》

科目名	地球と環境				
担当者氏名	落合 啓志				
授業方法	講義	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	1年・後期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力		◎ 1-1 教養 ○ 2-2 知識・技能			

《授業の概要》

身近なところや日本、世界で起こっている環境問題と自分たちとの関係について、具体的な事例をもとにして、グループ討議や発表を通して学ぶ。なお、グループ討議は3人程度で行い、毎時間グループのメンバーは変わる。

《テキスト》

なし

《参考図書》

なし。必要に応じて授業の中で紹介する。

《授業の到達目標》

主な環境問題の現状とその問題点および要因等について説明できる。

《授業時間外学習》

本授業では29時間の時間外学習を必要とする。

《成績評価の方法》

筆記試験（20％）、毎回の授業のまとめや感想のポートフォリオ作成提出（80％）を総合的に評価し、60点以上を合格とする。

《課題に対するフィードバック等》

提出されたポートフォリオは内容を確認し、コメントを付してフィードバックします。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	アライグマから考える環境問題	アライグマは動物園だけにいるのでしょうか。アライグマ問題から環境についていろいろなことが見えてきます
2	パンダから考える環境問題	パンダは人気者ですが、パンダから環境についていろいろなことが見えてきます。
3	レジ袋から考える環境問題	たかがレジ袋だが、されどレジ袋。レジ袋から環境についていろいろなことが見えてきます。
4	地球温暖化から考える環境問題	いま話題の地球温暖化問題をいろいろな角度から考えてみましょう。いままで気づかなかったことが見えてきます。
5	太陽光発電から考える環境問題	エコといわれている太陽光発電や自然エネルギーから環境についていろいろなことが見えてきます。
6	水から考える環境問題	蛇口をひねると当たり前のように出てくる水ですが、水から環境についていろいろなことが見えてきます。
7	環境問題のこれまでとこれから	過去の環境問題を振り返り、これからの環境問題への取組方やSDGs実現に向けて必要なことを考えます。
8	埼玉県の問題環境問題&試験	埼玉県ならではの環境問題について考えます。※第1回～第8回は、世の中の動きや受講者の学習状況によって一部変更もあります。
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		